

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200116		
法人名	社会福祉法人 熊野福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム下湯川苑(フラワーユニット)		
所在地	和歌山県田辺市本宮町下湯川479-3		
自己評価作成日	令和7年1月4日	評価結果市町村受理日	令和7年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和7年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム下湯川苑は、ご入所者様、ご家族様、地域の方々に支えられ安定した運営ができています。新型コロナウイルス感染症警戒期間には、外出や面会等は自粛し、皆様には大変ご不自由をおかけしましたが、現在はコロナ感染症前の状況に戻し、面会、外出、外泊にも対応し、ご家族や地域の方々との交流や、広々とした敷地内を自由に散歩していただく等、地域密着型施設ならではの利点を活かし対応しております。年に2回の遠足や、お花見、苑の畑でさつま芋を育て、そのさつま芋でご飯を炊いたり、おやつに蒸かしたりし、季節に応じた行事で皆様楽しんでいただいております。また、看護師により、入所者様の健康管理、医療との連携にも力を入れております。職員の職場環境にも力を入れ、研修参加や、各々が自己研鑽に努められるような環境づくりも進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を山に囲まれ木々の変化で季節を感じることができる。トンビやキジなどの野鳥も事業所内から観賞でき、麓の川も清流で自然を満喫できる。隣の旧中学校跡で地域のイベントが開催され、入所者もイベントを鑑賞したり、時には参加する事もある。入所者の多くは本宮町出身であり、イベント参加者に馴染みの人もいるので交流の機会にもなっている。食事メニューも多彩で、季節や郷土の料理を味わえる。オヤツには畑で収穫したサツマイモを焼いたり、誕生日には個別に手作りケーキで祝っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の運営理念があり、それに沿ってサービスを提供できるように心がけている。また、理念を共有できるように玄関に理念を掲げており、職員間でも話し合い、毎月の職員会議において共有し、実践に向け取り組んでいる。	3年前に理事長が交替した際に、管理者や職員も含めた会議で話し合い、新たな事業所運営理念を掲げ、日々のケアに取り組んでいる。日常業務を通じ理念を振り返るようにしている。事業所理念は、日頃から意識できるように玄関先に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	職員が自治活動に参加している。学校行事への参加や体験学習については新型コロナウイルス蔓延後より中断したままであるが、地域の行事に参加し、地域の方々と交流を持てている。	事業所の隣の旧中学校において、収穫祭の他、数々のイベントが開催されており、適宜参加するようにしている。入所者の知り合いも多く、会話の機会につながっている。職員も自治会に加入しており、地域との交流もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス蔓延により、中学生による体験学習の受け入れは中断しているが、依頼があればいつでも再開できるよう検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染対策が緩和され、R6年4月に運営推進会議を開催した。その際、2カ月に1度の開催について検討したが、まだ不安があるとので年2回の会議開催、それ以外は書面開催とした。10月にも運営推進会議を開催し状況等報告した。	今年度は、2回の運営推進会議を開催し、その他は書面での会議を2ヶ月に1度開催している。事業所運営に関して特に意見は出されていない。	2カ月毎の会議開催の際に、事業所の取組状況などを報告し、途切れない関係作りを志し、事業所の質が向上することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所者様、ご家族様へのサービス充実できるよう、包括支援センターと密に連絡を取り合っている。2カ月に1度の地域ケア会議には極力参加し、当苑の状況を伝えるなどし、協力関係を構築している。	地域包括援センター主催による本宮小地域ケア会議が奇数月に開催されている。消防署や医師の参加もあり、多職種の意見も確認でき、市町村等との連携が行えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設長をはじめ職員全員が身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアを実践している。施錠しないケアにも取り組んでおり、午前7時から午後5時半まで、出入り口には鍵をかけず、入所者が自由に苑庭に出られるようにしている。	身体拘束廃止の研修を受講し、年2回振り返り研修も行っている。スピーチロックには注意し、適宜確認している。玄関は施錠せず、自由に入出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	R6年11月29日に「高齢者虐待防止に向けたとりくみ」研修に管理者が参加。事業所内での振り返り研修を実施する予定。職員全員が虐待防止について学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が地域ケア会議において権利擁護等について学ぶ機会を持っている。実際に入所者の家族より成年後見制度を活用したいと相談を受け書類の作成の支援を行った。(R6年7月)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者様、ご家族様に十分に説明を行い、理解、納得をしていただき、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談、苦情窓口を明示し、説明し了承を得ている。また、ご家族とは面会時などに積極的にコミュニケーションをとるなどして働きかけ、何でも言いやすい関係性を築いている。いただいた意見や要望は実践できるよう反映している。	歯科受診等の際に家族介助ができない時、家族の希望により、職員で通院介助を行っている。コロナ禍も消毒やマスクを使用し、家族の希望に合わせて面会の機会を維持できている。外出・外泊を行う際も支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やケース会議の場など、機会を設けている。その他いつでも職員の意見や提案を聞けるよう心がけており、職員間の信頼関係の構築に努力している。	職員からの希望で、勤務シフトや脱衣場の暖房器具購入に応じている。ドライブの意見があったため、入所者や職員の都合に合わせて、適宜外出支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得、研修参加のための支援、健康診断、腰椎検診など職員の健康管理にも注意して、元気に向上心をもって働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症、介護技術、人権等の研修に参加し、振り返り研修においてすべての職員がレベルアップできるようにしている。業務マニュアルを作成して新人職員に活用している。各人のレベルにそって研修受講を提案している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同施設内の施設との情報交換や地域ケア会議、研修において得た情報を共有し、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談の段階から、ご本人が困っていることや抱えている不安、要望等に耳を傾け、ご本人が安心して生活できるように支援している。ご本人をよく知ることに努め、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へのアセスメントを実施し、ご家族の不安や要望を把握し、支援するようにつとめている。信頼関係を築けるよう、小さなことでも聞き取れるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が、グループホームに入所することを必要としているのか…他に適切なサービスはないのかなど検討し、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が入所者の生活歴を知ることで、その人の価値観や人となりを理解し寄り添う支援が出来る。職員が入所者から学ぶ機会も多くあり、互いに支えあっている意識を常に持ち、家族のような関係性を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に、ご本人を支えていくことを大切にしている。日頃より、ご家族様には連絡を密にとるようにしており、ご家族と共にご本人を支えていける関係性を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親類、友人などへの呼びかけや、地域の行事の情報などを得られるようにし、地域とのかかわりを継続できるよう支援している。	地域の訪問理美容を受けられている。近所の方の出入りも多く、馴染みの関係が継続されている。お墓参りに家族が同行出来ない場合は、職員で介助することもあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の交流を大切にし、また、職員が間に入り、入所者同士の交流が円滑になるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、他施設に移った入所者に面会したり、また、ご家族から相談があった際には相談に乗るなどの支援をしており、入所していた時の関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに対して時間を作り、本人の希望や意向を聞き出す努力をしている。雑談等も交え、ご本人の本音を聞き出せるように努めている。すべての職員に、ご本人の発言は支援経過に入力してもらえるように伝えている。	入所時に意向確認を行うと共に、入浴場面のゆっくりとした時間帯に、入所者から花見やミカン狩り等の希望があり、事業所の行事等に含めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、近隣の方などから話を聞き、生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。実際にご自宅を訪問させて頂き、生活環境の把握をしている。サービス利用経過については担当のケアマネジャーより情報を得る等、連携し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者一人ひとりの過ごし方や、心身状態、有する力を把握するために、職員全員が情報収集し共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者とは日常のコミュニケーションを通じ、ご家族とは連絡を取り合う等して意向や希望をうかがい、介護計画書に反映させている。ケース会議においてモニタリングの共有、職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回の訪問診療時に医師の意見を確認し、併せて看護師の意見も確認し、6か月に1度のペースで計画書を見直している。看護師によるリハビリ体操も計画書に反映し、服薬変更等があれば随時計画書を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、健康チェック表は個別に作成し記入。業務日誌や申し送りも記入し、職員がいつでも目を通せるようにし、情報が共有できるようにしている。共有漏れを防ぐため、台所にホワイトボードを設置し、共有に努め日々の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得られる入所者には、お盆やお正月などに外泊、外出支援を行っている。また、医療機関の受診や入退院時の送迎など、移送サービスも必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設見学や交流会、福祉体験学習などは休止しているが、R6年9月には踊りの慰問、11月には地域の祭りに参加するなどし、楽しみを持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師は、入所者が入所する前からかかりつけ医であった方が多い。入所においてかかりつけ医を変更することに対しても、ご本人、ご家族に理解を得ている。定期的に往診してもらい、連携を図り適切な医療を受けられている。	月1回の訪問診療があり、歯科受診については通院介助を行っている。眼科は、訪問診療が受けられている。24時間医師と連絡をとれる体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	R5年9月より看護師が入職。日々の変化や気づきは職場内の看護師に伝え相談し、個々の入所者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者と情報交換できるよう、関係づくりに努めている。ご家族を含め、安心して治療を受けられるよう情報共有につとめている。早期に退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期医療に関しては、入所時にご本人、ご家族に意向を確認し共有している。事業所でできることについても説明し了承を得ている。主治医にも意向を説明し、方針を共有し協力を得て支援に取り組んでいる。	入所時に「事前意思確認書」で本人・家族の意向を確認し、状態変化時等には随時家族の意向を確認している。要介護度によっては同法人の特養入所も説明しているが、希望があれば施設でも看取りは行える。昨年度は、1名の入所者を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の急変時や事故発生時に備え、応急手当や、初期対応について、施設の看護師に指導を受けている。また、事故対応マニュアルの整備もできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、年2回の消防訓練（日中、夜間）を行っている。また、自然災害に備え、河川氾濫等の避難訓練も年1回行っている。各避難確保計画も整備している。	災害時は、隣接の生活支援ハウスに避難するようにしている。過去の災害時は、行政の誘導により、高台にある元デイサービス事業所に避難した。5日間の備蓄があり、オール電化であるため自家発電機も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないように配慮している。苑だよりについては、写真を掲載していることもあり、配布は必要最小限の関係者にとどめており、記録など個人情報の取り扱いには充分注意している。	日々のケアでは、本人の思いや意向を否定せず、一人ひとりの尊厳を大切に行っている。年4回の苑だよりには、誕生日会や行事への参加の様子を写真で掲載し、家族や関係機関に配布している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望が表せるように、職員が働きかけを行ったり、様々な場面で自己決定が出来るように声掛け、支援している。ご本人が納得して生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、職員もゆとりをもって接するように心がけている。また、行事や買い物などの外出の際には、当日のご本人の意向や体調などを確認し、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容院を利用できるよう、外出支援を行ったり、ご家族と一緒に出掛けることが出来るよう支援している。化粧品や着たい服の購入なども支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配下膳や後片づけなども手分けして一緒に行っている。季節に合った多彩なメニューなどの話をしたり、食事を楽しみにしてもらえるように支援している。	外注先の献立は、季節を取り入れた料理や郷土料理もあり、メニューが豊富である。近所からの差し入れや農園で育てたさつま芋を調理して、食の楽しみにつなげている。誕生日には手作りケーキを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外注業者に委託しており、入所者の嗜好に合わせ、栄養バランスに配慮したものになっている。一人ひとりの食事量、水分摂取量は個々に記録しており、食事の形態や形状にも工夫し、しっかりと食事を摂っていただけるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや、うがいを励行し、口腔内の清潔を保持している。ご本人に合った口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツとパットの使用は控えるようにし、入所者各々の排泄サインを汲み取り、自然な声掛けによりトイレ誘導し、トイレでの排泄を促し自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で確認しながら、しぐさ等をきっかけにトイレ誘導している。夜間は、2時間ごとに巡回し、排泄確認をし、センサーマット(利用者がベッドを離れる際に踏むことで、職員に自動的に通報を行う機器)を使用し、早急に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響などを理解し、便秘予防のための食事、おやつを提供している。また、水分をしっかりと取ってもらい、適度の運動の働きかけも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり、ゆったりと入浴を楽しむことができるよう支援している。また、車いすの方でも安心して入浴ができるよう脱衣場や風呂場を広めにとっており、個々に沿った支援をしている。	週2回午前中に入浴を行い、気分が乗らなかった場合は、声かけの方法や曜日の変更で対応している。入浴剤は使用せず、柚子や菖蒲で季節感を味わえるようにしている。同性介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者が休息したり、安心して眠れるよう状況に応じ職員が声掛けしたり誘導するなどの支援を行っている。また、居室や廊下などに、椅子やソファを設置しており、自由に休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者の服薬情報は最新のものをファイリングし、職員がいつでも確認できるようにしている。また、副作用についても理解し、医師の指示通り看護師が中心となり支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴から、得意とする分野において活躍できるよう配慮している。食事の片づけ、掃除、畑の手入れなど、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、園芸など日常的に戸外に出かけられるよう支援している。また、遠足や花見、ドライブなど、普段行くことのないところへ出かける機会を作り、家族の参加も受け入れている。	散歩を日課にしている入所者もいる。年2回行っている遠足の帰りにスーパーに寄り、買い物を行うようにしている。近所には花見ができる場所が数か所あり、その時々で見学に行き、ドライブも適宜行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方は、小銭をもってもらい、難しい方は、施設が管理している。利用者の希望や力に応じて、お金の所持や使うことを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親類などと、電話や手紙のやり取りができるよう、プライバシーに配慮しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	紀州材を多く使った落ち着いた雰囲気での造りであり、採光の天窓から自然の明るさを採り入れている。居室やデイルームには季節の花を飾る等し、季節を感じる事が出来るようにしている。随所にソファや椅子を置いており、心地よく過ごせる空間となっている。	リビングは、天窓から適度な光が差し込み、室温も適宜調整を行っている。玄関先には季節の花を飾り、鑑賞できるようにしている。トイレは、車椅子で介助者が一緒に入っても十分なスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の談話スペース、空きスペースにも椅子やソファを置き、入所者が思い思いにスリッパを「居場所」の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスなど、ご本人やご家族が自由にレイアウトできるようにしている。一人ひとりが心地よく過ごせるよう配慮、工夫している。	居室は、内側から鍵がかけられ、ドアは一部擦りガラスになっている。ベッドは、事業所で準備されており、家庭で使用していた家具や仏壇等を個々に配置している。居室の床は、紀州材を使用しており、落ち着いた雰囲気の中で居心地よく過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーや時計を適所に設置したり、必要な場所への手すりの設置や床材の滑り止めの工夫など、個々人の分かる力を活かし安全に生活できる環境づくりをしている。		